

様式第 2 号

視察研修先	大分県宇佐市	氏名	野口康一郎
視察研修項目	移住・定住について		
<p>【視察先概要】 大分県北部に位置し、北には周防灘が開けていて、県都大分市と福岡県北九州市のほぼ中央に位置している。市内には八幡神を祀る全国約 4 万社あまりある八幡社の総本宮「宇佐神宮」があり、全国から参拝客が訪れる。平成 17 年に旧宇佐市、旧安心院町、旧院内町が合併し現在人口約 5 万 1 千人。</p> <p>【視察内容】 2024 年に「住みたい田舎ベストランキング」で人口 5 万人以上 10 万人未満の市で高評価を受け移住者が増加している。各世代に対してきめ細かな支援がある宇佐市の現状と課題を伺った。</p> <p>【感想・所見】 宇佐市から福岡博多まで車や電車で約 1 時間半、大分市まで約 40 分と大きな都市にも近くちょうど良い距離の田舎の街。自家用車がないと移動は困難だとの事だが、ショッピングモールやチェーン店のお店もあり、気候も穏やかとの事でのんびり暮らしたい方にとっては住みやすい街だと感じた。</p> <p>移住者向けの補助金が充実しているようだが、お金の事だけが移住を決意するキッカケではないとの事だった。移住者の多くが「親がいる」や「親戚が住んでいる」などの理由が多く、県内や福岡県からの移住者が多くを占めているとの事。都会での忙しい生活に疲れた方が移り住んでいるとの事で若い世代だけではなく、高齢の夫婦で移住する人もいるとの事。近隣の市町村には大きな工場もあり働く場所もあるようだった。東京などからも移住してくる方もいると伺ったが、東北とは違い雪があまり降らないようなので雪下ろしなどの冬の生活でも負担が少ないのが選ばれるポイントになっているのではないかと感じた。</p> <p>地域おこし協力隊の定住率が約 7 割ととても高いことに驚いた。宇佐市では協力隊員が任期後も円滑に定住できるように任期 2 年目から勤務時間内で定住活動を認めている制度を実施していて、協力隊員に手厚い支援があるのが良い事だと感じた。宇佐市に折角来てくれた方を手放さないで定住に繋げる取組は真似すべき所だと感じた。</p> <p>近年はどの自治体でも移住者を増やそうと様々な金銭的な支援を行う自治体が増えて、人口の奪い合いのような状態になっている。財政力がある自治体では継続しての支援が可能かもしれないが、そんな自治体ばかりではない。長期的に考えて、移住後の生活の満足度を高める施策が必要になってくるのではないかと感じた。</p>			

様式第 2 号

視察研修先	大分県別府市	氏名	野口康一郎
視察研修項目	Park-PFI制度を活用した公園整備について		
<p>【視察先概要】</p> <p>大分県の東海岸のほぼ中央に位置し、日本有数の温泉湧出量と源泉数を誇る温泉地としても有名で年間観光客が約700万人訪れる観光の街。7ヶ所の地獄を巡る「地獄めぐり」が有名。人口約11万人。</p> <p>【視察内容】</p> <p>Park-PFI制度がスタートした、翌年平成30年から現在まで4ヶ所Park-PFI制度を活用して公園の魅力向上を図ってきた。</p> <p>【感想・所見】</p> <p>Park-PFI制度を利用した目的として「公園は利用してもらわないと意味が無いので利用するキッカケ作りをした。目的地になるようにする仕掛け作りをした。」との話を聞いて全くその通りだと感じた。別府市役所前にとっても広い別府公園があるが、イベント以外だと常に人が集まる状態ではなかったため、どうすれば利用してもらえるかのニーズ調査をして制度を活用したとの事。民間事業者から制度を活用してもらう前の「サウンディング調査」をしっかりとした結果、大手のコーヒーチェーン店が2社公募に名乗りを上げたとの事で見習うべき所だと感じた。ただ、約11万人の人口と観光の街としてのネームバリューもあったのではないかとと思うので、寒河江の場合合同事が出来るとはあまり思えなかった。しかし、行政が様々な民間事業者とコンタクトを取り、寒河江市に興味を持ってもらいながら事業者の利益になると判断されれば協力してくれる事業者も現れると思うので活性化させたいとの熱意と市民ニーズを調査して寒河江ならではのPark-PFI制度を活用しての活性化は出来るのではないかと感じた。</p> <p>事例として教えていただいた、春木川公園の利活用が印象に残った。商業施設の屋上を人工芝のグラウンドとして整備した、とてもユニークな内容だ。地域の課題解決と都市公園整備、新たな価値創造を「立体都市公園制度」を活用して、土地の有効活用を図り、都市公園の効率的な整備を図ったものだ。地域住民の悩みを解決しながら、長年活用できなかった公園用地を民間のアイデアで魅力的な公園にしている素晴らしい事業だと感じた。</p> <p>公園の改修に関してほとんどが民間で費用を負担していて、管理も民間事業者が行っているなど、自治体の財政負担を軽減しながら、市民の皆さんから喜んでもらえる仕組みは素晴らしいと感じた。ぜひ寒河江でも取組をしてもらいたいと感じた。</p>			

様式第 2 号

視察研修先	大分県自主防災組織活性化支援センター	氏名	野口康一郎
視察研修項目	自主防災組織活性化支援センターについて		
<p>【視察先概要】</p> <p>大分県の沿岸部のほぼ中央に位置する県庁所在地で中核市に指定されている。県内の総人口の約 42% が集中している。人口約 47 万人。</p> <p>【視察内容】</p> <p>近年、全国各地で大規模な自然災害が多発する中、様々な災害に備え各地域の自主防災組織を活性化させようと防災士の養成やスキルアップ研修などを実施している。</p> <p>【感想・所見】</p> <p>視察にお邪魔する前に拝見していた資料を見て、多くの方が防災士のスキルアップ研修や自主防災組織について積極的に参加されていることに驚いていた。お邪魔して理由を伺ったところ、予想はしていたがやはりいつ起きるかわからない「南海トラフ地震」に対しての備えだそう。テレビや新聞でいつ起きても不思議ではないと言われている事から、大分の皆さんの防災への意識が高い事がわかった。</p> <p>寒河江はありがたい事にこれまで大きな自然災害が起きていない地域である。それ故に、防災への備えも低い地域なのだと思う。実際、自分の地域でも自主防災組織が町内で組織されてはいるが、名ばかりで訓練をしたり講演を聴くなどの活動はしていない。話を伺うとしっかりと活動している地域もあるようだが形だけ、また参加する方が同じ方ばかりでマンネリ化しているとの話を聞いた事もある。どのようにすれば防災に対して参加する方を増やす事が出来るかが課題だと改めて感じた。</p> <p>大分では地域防災を担うリーダーの育成に力を入れているとの事。特定の方だけが防災に対して理解するのではなく、多くの方にリーダーになってもらうための組織の横展開と連携を強化しているとの事。災害が発生すると起きてから、日常に戻るまでかなりの時間を要するのでその間に色々な事が起こる。災害が起きた時どうするか、避難してからの避難所生活はどうするのか、実際起こってから考えるのは遅いので、どんな事が起こりうるのかのシミュレーションが大切だと改めて感じた。それには地域の方々との日常の繋がりが大事だと思う。どこに誰が住んでいるのか、誰が確認に行くのかや避難所の確認、防災グッズの準備などやることが多い中、実際に起きた時に動けるようにするには体験してみるしかないと感じた。</p> <p>大分でも研修で災害のリスクを学ぶ事は大事だが、実際に体験してみたいとの声が多くあると伺った。防災グッズを実際に使ってみたり、避難所を作ってみたりとやってみないと分からない事が多いと思う。頭で理解するより体で覚えるのが一番だと思った。</p>			